

建設分野の

外国人材受入れ ガイドブック2019

建設技能人材研究会 編著

**技能実習との違い、外国人の待遇原則、
受入基準や手続を詳説!!**

**受入建設企業、建設業団体、
登録支援機関すべての実務必携書!!**

新たな
在留資格による
外国人建設労働者の
受入れのすべてが
わかる!!

はじめに(抜粋)

日本は、現場で働く若年者層が減り続けています。

少子高齢化で生産年齢人口は減少の一途をたどっていますが、建設業ではこの傾向がより深刻です。

外国人を適正かつ円滑に受入れるため、建設分野での特定技能外国人の受入れに当たっては、出入国在留管理庁への在留資格申請の前に、受入れ企業は、受入計画を作成して国土交通省の認定を受け、認定後も認定計画の実施状況について国土交通省又は適正就労監視機関から確認を受けることが義務付けられました。受入計画の認定には、賃金等の処遇の水準、建設キャリアアップシステムへの事業者登録及び外国人の技能者登録、登録受入事業実施法人への加入などが要件となります。

本書は、特定技能外国人の適正かつ円滑な受入れのための行政手続きのほか、受入企業の立場から成功する受入れのためのポイントをわかりやすく解説しています。

この特定技能外国人制度を有効に活用して、今後深刻化する人手不足の状況を乗り切り、引き続き地域の守り手としての建設業の役割を果たしていただければと思います。

A4判・並製・定価本体 1,600 円（税別）・図書コード 3373

 臨研 大成出版社